

<補助事業計画>

※本ページ以降、5 ページを超える部分や欄外記載、別紙は審査対象としません。

1. 現在の事業内容
商品、製品、サービス内容等を具体的に記載してください。
事業概要：個人として開業した洋服のリフォーム店です。場所は駅ビル近くのクリーニング店のスペースを借りて2名で営業しています。 平均客単価は約3,000円、1日当たりの平均依頼件数10件、30～40代の方がお客様の半数を占めます。リフォームの三つの業務と現状での業務構成比 ① 調整：お客様の体形・要望に合わせて衣類を調整する。 (50%) ② 修理・修復：劣化したり・破損したりした箇所の修理・修復をする (40%) ③ 作り直し：デザインを大きく変更して作り直しをする。 (10%)
2. 自社の強み
競合他社と比べた自社の優れている点（ノウハウ、経営資源、技術力等）、独自性等を具体的に記載してください。
オーナーは、服飾デザインのプロの養成校を経て、大手アパレルメーカーでのデザイン・洋服のリフォーム等10年以上の豊富な経験があり、同時に高い縫製技術が提供できます。 お客様に寄り添った対応と丁寧な仕立てを心がけており、結果としてお客様から多くのリピートオーダーを頂たり、口コミ評価でも高い評価を頂いています。
3. 自社の弱み
競合他社と比べた自社の劣っている点（ノウハウ、経営資源、技術力等）、ボトルネックとなっている点等を具体的に記載してください。
作業効率化ができていない：丁寧な仕立てを優先していることもあり、他社と比較しても1件当たりの依頼に対する作業時間が長くなっています。また作業に当たる人数が限られています。結果として、1日に対応できる依頼件数の制約ができてしまい、新規でのリフォーム依頼を獲得できない状況です。 技術の伝承ができない：オーナーの専門的な知識や長年の経験をスタッフに伝承する時間的な余裕がないのが弱点です。
4. 補助事業により生産性向上が見込まれる項目
該当する項目にチェックを入れてください。
☒ 売上高の増加 ☐ 仕入高（材料費）の削減 ☐ 人件費、減価償却費、仕入高（材料費）、光熱費を除く費用の削減 ☐ その他（ ）
5. 補助対象経費
導入する設備の内容、役割及び必要性について、詳細に記載してください。
〇〇社製工業用ミシン(型式番号〇〇〇-〇〇)1台660,000円(税込み) デジタルソーイングシステムを搭載したフルデジタルミシンで、従来のミシンに比較してデジタル化によりその生地にも最適な調整ができ、作業時間の短縮化、作業品質の向上が図られます。 〇〇社製業務用刺繍ミシン(型式番号〇〇〇)1台 2,200,000円:(税込) カメラ機能と1頭10針を搭載した「唯一の」業務用刺繍ミシンで、デザインの幅が広がり、さらに糸交換の頻度を減らすことにより、大幅に生産性の向上が図れます。

6. 補助事業により生産性向上となる取組内容

6-1. 現在の状況

生産性向上に取り組む事業等の現在のやり方、課題等を詳細に記載してください。

業務の効率化ができていない：

需要の損失：1日に対応できる依頼件数に制約があり、5～6件／日注文をお断りをしている状況です。

技術の伝承：スタッフへ専門的な技術の伝承を通して、より高度な対応と対応件数のアップを図りたいが、その教育のための時間が割けていません。

顧客ニーズに対応できる設備がない：

受注機会の損失：他社で対応できているネーム刺繍・ワンポイント刺繍といった基本的なサービスが当店では提供できていない為、毎月数十件の注文を逃しており、受注増に繋げることができておりません。

6-2. 設備等の導入に伴い生産性向上となる状況・効果

導入した設備等により、どのような事業、改善に取り組むのか、また、取り組みの結果として、「4. 補助事業により狙う効果」でチェックした項目への効果等を具体的に記載してください。

新規設備の導入によって、現状の課題を解決していきたいと考えています。

- ① -1 これまで手作業だった生地ごとのミシンの調整や縫製作業の一部をデジタル化することにより、作業時間の短縮・作業品質の向上が図ることができます。
- ① -2 デジタル化したマシン導入で具体的な改善効果が図られます。
 リフォーム（調整）の作業時間：30分から21分となり30%の削減
 リフォーム（修理・修復）の作業時間：50分から10分となり80%の削減
- ② 作業時間の短縮により、懸念であった従業員への技術の伝承のための育成時間の確保ができ、また従来お断りしていた顧客の獲得が可能になります。
- ③ 新規設備の導入により、従来対応できなかった分野（ネーム・ワンポイント刺繍）への参入ができ新規顧客を獲得できます。

7. 事業収支計算書

（単位：千円）

	R6 年 12 月期 前期※1	R7 年 12 月期 1 年目	R8 年 12 月期 2 年目	R9 年 12 月期 3 年目
① 売上	8,000	8,000	8,800	9,680
② 営業利益	950	298	865	1,301
③ 人件費※2	4,740	5,292	5,345	5,399
④ 減価償却費※2	310	410	410	410
⑤ 付加価値額 (②+③+④)	6,000	6,000	6,620	7,110
⑥ 付加価値額増加率※3	-	0%	10%	18%
⑦ 給与支給総額	4,266	4,763	4,811	4,859
⑧ 給与支給総額増加率	-	12%	13%	14%
⑨ 従業員数	1	2	2	2
内 正社員	0	0	0	0
非正規社員	1	2	2	2

※1 前期は令和6年4月～令和7年3月の間に到来する決算期とすること

※2 製造業においては、製造原価と販売費及び一般管理費との人件費を合算して記載すること

※3 3年目に付加価値額増加率が4.5%以上になる計画とすること

上の表に記入したうえで、数値算定の根拠(単価、数量)について具体的に記載してください。

➤ 前提:

- ・機械の導入により、これまで断っていた注文を、1日5件程度は受注できる見込みであり、売上げの伸びは、1年目は設備稼働前なので前年同額とし、2年目以降は10%ずつ売上高の増加を見込んでいます。
- ・減価償却費は、償却完了による減少(年27万円程度)と、今回の設備導入による増加(年37万円程度)を考慮し、年10万円程度の増加となる見込みです。
- ・人件費は、1年目はパート従業員の雇用と賃上げにより、50万円程度の増加、以降は賃上げにより1%程度の増加を見込みます。

8. 賃上げ計画

給与支給総額の増加に向けた今後3年間の賃上げ計画について、具体的に記載してください。

- ・現在基本自給の他に作業実績に応じて単価10%の追加手当を現状で支給しています。
- ・現在の時間給は1,250円で、時給を毎年1%ずつアップしていきます。

9. 資金調達の方法

区分		金額(単位:千円)
必要経費	設備投資額	2,600
	その他	0円
	計	2,600
資金調達額	政府系金融機関	0円
	民間金融機関	0円
	自己資金	2,600
	その他	0円
	計	2,600

上の表に記入したうえで、補助事業に係る必要経費と資金調達の方法、借入予定金融機関名、相談状況(補助金を受けるまでの資金繰りを含めて)について具体的に記載してください。
※ 補助事業実施後、補助金

交付までは期間を要する場合がありますのでご注意ください(参照:公募要領P.10)

表に記載のとおり、自己資金を2,600千円用意しています。

10. 実施スケジュール

番号	実施項目	実施時期
1	交付決定	令和7年10月
2	工業用本縫いミシン及び業務用刺繍ミシン発注	令和7年10月
3	工業用本縫いミシン導入	令和7年11月
4	業務用刺繍ミシン導入	令和7年11月
5	社内テスト・本格稼働	令和7年12月
	実績報告提出	令和8年1月

※ 補助対象経費の導入時期、実績報告書の提出時期については必ず記入すること

上の表に記入したうえで、期間を要する内容(必要とする許認可や取得の見込み等)に応じて以下に詳細を記載してください。

特に必要とする許認可はありません。

販売元である商社からは、発注後1か月以内に納品が可能なことを確認済みです。

また、設備導入後は、試作を開始し、試作段階から従業員にも積極的に操作に慣れさせ、作業工程を整えます。本稼働ができる体制が整い次第、速やかに実績報告書類を提出します。